

## トップメッセージ

# 「ふれあい豊かなくらし」に貢献するために

2016年は、前半に足踏み状態が見られた米国経済も後半には持ち直しましたが、一方で中国および中国の経済発展に依存する新興国の経済成長が鈍化の傾向にあるなど、回復のスピードにばらつきが見られる世界経済の状況でした。

国内経済に目を転じてみますと、企業収益や雇用・所得環境に改善の兆しが窺えるものの、全体としては、緩やかな回復基調で推移しましたが、その反面、世界経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響など、先行き不透明な状況で推移しました。

印刷業界においては、インターネット広告を中心に企業の広告宣伝費が拡大する一方、ペーパーメディア需要は伸び悩むなど厳しい市場環境が続きました。

このような状況下ではありましたが、2016年度は、売上高は微減ながらも営業利益は前年度および公表値を上回ることができました。

私は、「グループを含めた構造改革の遂行」、「新事業・新市場の創出」、「グローバルな事業展開の加速」の3つを重要な経営課題と位置づけ、様々な施策を展開していますが、2016年度は、「新事業・新市場の創出」については新たな一歩を踏み出しました。

## 「可能性をデザインする」

トッパンは、守っていくべき価値観と規範を示した「企業理念・経営信条・行動指針」からなる「企業像」と、これに基づいた「事業領域」とによって構成される「TOPPAN VISION 21」をすべての企業活動の基盤としています。

2016年度は、この「事業領域」を見直し、リソースごとに分類された5つの事業系で培ってきた「技術・ノウハウ」と、それにかき合わせる「市場・顧客」として、重点的に取り組むべき次の4つの成長領域を設定しました。「健康・ライフサイエンス」、「教育・文化交流」、「都市空間・モビリティ」、「エネルギー・食料資源」。そして、このコンセプトを「可能性をデザインする」とし、2017年の経営スローガンとしても採用しています。可能性とは「未来の価値」のことであり、デザインとは広い意味での企画・設計を表しています。すなわち「可能性をデザインする」とは、未来の価値を見出し、企画・設計して、実現していく社会的価値創造企業になるということです。

## 社会とともに持続的に発展する企業を目指して

これらの未来に向けての経済的成長戦略と同様に、社会的課題を解決し社会とともに発展していくための企業の社会的責任をしっかりと果たしていくというサステナビリティ戦略も大変重要だと考えます。

トッパンは、2006年9月に「国連グローバル・コンパクト」に参加し、人権・労働・環境・腐敗防止にかかわる10項目の原則を支持することを表明しました。私は、この「国連グローバル・コンパクト」を今後とも継続的に支持し、これを活動の原則としてトッパンの社会的責任活動を推進していきます。

また、2011年度からISO26000(組織の社会的責任の国際規格)をCSRマネジメントに取り込み、解決すべき社会的課題と果たすべき社会的責任を明確にし、活動の指針として取り組みを進めています。ISO26000は、解決すべき社会的課題が凝縮されたものであり、これらを解決することは、国連グローバル・コンパクトを実践することにつながります。

2015年9月に国連本部において「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核として「持続可能な開発目標(SDGs=Sustainable Development Goals)」が採択されました。このSDGsに示された17の開発目標とトッパンの事業との関連性を分析し、活動の目標として今後さらに取り組みを進めていくべき重要テーマを抽出し、その達成に向けたロードマップを作成していきます。

## 様々な社会的課題の解決に向けて

SDGsの開発目標の中でも、目標12、13、15などにかかわる環境の課題は大変重要です。トッパンの5つの事業系のひとつ、生活・産業資材系では、サステナブルなパッケージの開発とそれを用いた新たな付加価値創造の提案活動に取り組んでいます。

中身の長期保存には適しているが、重量が重いため、運搬時の輸送コストとCO<sub>2</sub>の排出量の大きいビン・缶に代えて、アルミ包装材に匹敵するバリア性能をもつフィルム「GL BARRIER」を用いたパッケージを提案するこ



とによって、CO<sub>2</sub>の排出量の削減やフードロスの削減といった持続可能な社会の実現に資するビジネスを展開しています。

トッパンでは、印刷技術を通して長年培ってきた高精細デジタル技術、カラーマネジメント技術などを核に、貴重な文化財をデジタルアーカイブとして保持し後世に遺していく活動を1998年から行ってきました。昨年4月の「熊本地震」で甚大な被害を受けた熊本城についても、石垣から天守閣の細部に至るまで、デジタル撮影された膨大な数の画像を元に高精細デジタルアーカイブされたデータを使ったVR(バーチャルリアリティ)作品『熊本城』を2011年に制作していました。トッパンは、2016年6月から、東京国立博物館と協働で、同館内の「TNM & TOPPAN ミュージアムシアター」でこのVR作品のチャリティー上演を開催し、鑑賞料の全額を「熊本城災害復旧支援金」として寄附し、熊本城の復旧、復興に役立てていただいています。

私は、社員を会社の財産、すなわち「人財」として捉えており、その人財の多様性を重視した成長戦略を目指し、ダイバーシティ経営を推進しています。トッパンは、その一環として障がい者雇用に力を入れています。障がい者の就労の場の提供と支援により、自立した社会参加

を促進することを目的に設立された特例子会社東京都プリプレス・トッパンでは、障がいの有無や程度にかかわらず、一人ひとりが能力を高め合い、可能性を切り開いていけるよう、労働環境の整備をはじめ、自立に向けた様々な取り組みを進めています。

## ステークホルダーの皆さまとともに

トッパンでは、今後ともステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションの起点となるこのCSRレポートを通じて、さらなる情報開示を図ってまいります。是非忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

私たちトッパンは、ふれあい豊かなくらしをおくることのできる持続的な社会の実現に向けた取り組みを継続してまいります。今後とも皆さまからの一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年8月

凸版印刷株式会社  
代表取締役社長

金子真吾